

# 尾瀬ネットワーク通信

2006年8月20日 VOL9. 3(28) NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

## まずマイナス遺産の清算を 尾瀬の単独国立公園化構想に注文したいこと

尾瀬を巡る今年最大の話題は、単独国立公園化に向けた動きであろう。4月には「尾瀬国立公園実現期成同盟会」が結成され、会長に桜枝岐村長、副会長に片品村長が選出された。また、環境省の委託による「尾瀬の保護と利用のあり方検討会」も発足し、実現に向けての具体的な検討に着手した。現在の案では、2007年夏までにプランを作成し、秋の中央環境審議会に諮ったうえ、翌年秋の国土審議会で決定...という筋書きである。

単独国立公園化論議の発端は、昨年8月に開かれた尾瀬サミットでの環境省自然環境局長の発言であった。「日光」の冠がある国立公園の名称では、一般には尾瀬も圏内に入っていることが理解されない...という不満を抱いていた地元にとって、これは刺激的で魅力に富んだ発言であった。しかし、課題も多いことを忘れてはならない。

尾瀬を守る会（中根一郎会長、本会など6団体で構成）は6月26、27の両日、尾瀬沼エリアで、ごみ投棄の現地調査を実施した。総勢11名のメンバーのうち、本会からは椎名事務局長、田中志朗指導員、高橋喬の3名が参加した。

その結果、尾瀬沼キャンプ場の北側、沼の上流約200mの旧焼却炉跡（1996年撤去）周辺で、信じられない光景にでくわした。アルミの大きななべや食器、さび付いた空き缶、焼却残灰などのほか、なんと乾電池までがビニール袋に入れられて、無雑作に放置されていた。

後日の桜枝岐村等の記者会見では、ごみはかなり古いものとされたが、乾電池の状態などを



旧焼却炉跡地に棄てられて使用済み乾電池

見ると、さほど古いものではないことは明らかである。

守る会の撤去申し入れに対して、福島県や桜枝岐村も現地を調査し、8月下旬ころから順次撤去するとしているが、現場にはごみだけでなく、コの字型の焼却炉の一部や、コンクリートの柱などが倒されたまま放置されており、撤去は容易ではなさそうだ。

沼のエリアだけではない。見晴地区でも6軒の山小屋などから出たゴミが、共同処理場に埋められたまま放置されており、昨年秋の調査の結果、環境省は撤去を決めている。計画では約400㎡を深さ1mにわらって掘り返すことにしている。このほかにも、尾瀬には“ごみ問題”というマイナスの遺産がまだあるといわれ、資金面からこれらの処理が完全に行われるかは疑問であるが、今後の動向を厳重に見守っていく必要がある。

ところで、国立公園の要件として面積が最低

3万ha以上と定められている。尾瀬だけではこれに足りないため、環境省は福島県内の会津駒ヶ岳や帝釈山など約1万haを編入するという苦肉の策を打ち出した。単独国立公園化が実現し、帝釈山登山口に駐車場などが整備されると、シーズンには山腹を白い可憐な花で埋めつくすあのオサバグサの運命は目に見えている。盗掘どころか、絶滅さえ時間の問題かと思うと胸が痛む。

このほか、クマの出没や、本会も調査に参加しているシカの食害など、解決すべき問題は山積している。まず、こうした足元の問題に目を向け、国立公園の本来の使命を十分にわきまえたうえで単独公園化をめざしてほしい。

(高橋 喬)

## ゴミ撤去の申し入れ

環境省関東地方環境事務所

日光自然環境事務所

所長 福井 智之 殿

尾瀬を守る会

会長 中根 一郎

構成団体・NPO 尾瀬自然保護ネットワークほか5団体

### 尾瀬沼畔東岸(集団施設地区)旧焼却場周辺のゴミ撤去の申し入れ

私共は26日(月)同地区のゴミ状況を調査しました。焼却場本体は土台を残して上部は撤去されていますが、周辺にはゴミ焼却灰が散乱し、上部に植物が生え始めているものの多量のゴミが残されており。

尾瀬の水系では最上流にある、尾瀬沼の水質が悪化しているのは、これらの化学物質の影響も考えられます。至急撤去すべきものと思いません。貴所のお考えをお聞かせください。

### 環境省日光事務所長より回答

尾瀬を守る会の申し入れに対して7月28日、環境省日光事務所長の福井智之所長より次のような回答があった。

- 1) (ごみ集積問題について)尾瀬全域の全容を把握すべく、関係行政機関、山小屋関係者等と合同で実態調査を行っている。
- 2) これまでの調査では昭和40年代のごみであると考えられる。
- 3) 確認されたごみの処理方法については、関係行政機関、団体等と検討していくことで合意している。
- 4) 処理には巨額の経費や労力を必要とする

ため、短期間での処理は困難な状況にあるが、適切に対応していきたい。

### 2006年 入山指導...群馬側

- 1 日時 6月17日(土)午前6時~7時
- 2 場所 戸倉 並木駐車場
- 3 メンバー 横田、坂本、深山、清水
- 4 概況

6月16日(前日)の夕方、並木駐車場には30~40台の駐車があったが当日の午前7時には、ほぼ満車(250台)となり8時半頃には駐車場は閉鎖され、乗り合いタクシーは戸倉発となった。

駐車場で入山者に対し山行の行動や日程を聴取し、リーフレットを配り自然保護の大切さ等の理解と、協力を求めた。

また、この時期(5/11~6/30)至仏山ルートは閉鎖されていた。

入山は2人またはグループで日帰りが殆どであった。相変らずスニーカーの軽装が目立った。



戸倉・プチホテル「アップル」に感謝状贈呈  
左から坂本・深山・経営者萩原氏・清水

- 5 その他  
(ア) 6/17現在、アヤメ平~長沢新道・八木沢道間のルートは橋の破損で通行が禁止になっていた。  
(イ) 開花  
ミズバショウ・ショウジョウバカマ・タテヤマリンドウ・リュウキンカ・ミツガシワ・シラネアオイ・etc  
今年の水芭蕉は開花が遅れている。

(群馬側担当理事 坂本敏子・清水博之)

### 入山指導前半終了...福島側

福島側入山指導(バス添乗解説)予定通り実施、前半無事終了致しました。

5月26日の春の研修会を兼ねた1回目が指導員、会員、一般合わせて18名。2回目6月9~11日が指導員5名、3回目7月15~17日



が6名、4回目7月21日～23が4名の参加で実施されました。

今年は3月中旬に1mを超える大雪が降り、尾瀬沼の沼あけも例年より遅れミズバショウの開花も少し遅れ、入山者も少なく静かな尾瀬の幕開けとなりました。春の大雪の布団を着た小さな植物（花々）は遅霜の心配もなく例年より多く花が目立ちました。特にサワラン、トキソウ、タテヤマリンドウ、ハクサンチドリなど、ニッコウキスゲは昨年と比較すると花数は1/2位でした。コバイケイソウは裏年でしょう、尾瀬沼付近では見るできませんでした。

バス添乗解説では、各回とも一人が3回から5回と午前中にかけてフル稼働でした。各自が御池～沼山間のわずか20分から25分の時間をフルに使い、バスのスタート前からの説明でした。スタート前のバスではアイドリングストップによる地球の温暖化防止の話などから説明に入りました。会津バス職員の方々とも良い関係が保たれ気持ち良く解説ができたものと思われれます。

ブナ平での説明時にはバスを止めて戴き説明をしています。乗務員の方々も協力的で楽しく添乗解説ができました、参加指導員の方々と会津バス職員の皆様に御礼申し上げます。また今年は雨が多く、『NW御池基地』（ベンチテブル）の設営では非常に苦労しました。3回目の7/16日には雨宿りの我々を見かねた御池ロッジの支配人、星光祥（みつよし）さんにテントを張って戴きました。簡易テントの設営にもロッジの職員さん、会津バス職員の方々の協力を戴きました、ロッジ支配人さんのいつでもお使い下さいとの言葉に感激の入山指導でした。

添乗解説参加者：

佐藤信良・大橋文江・円谷光行・伊藤アケミ・坂本敏子・初谷 博・椎名宏子・横田有弘・武繁春・田中志朗・磯部義孝 計11名

新人指導員の参加が多くみられました

（福島側担当理事 磯部義孝）

## 玉原湿原と鹿俣山自然観察会

- 1 実施日 7月1日（土）～2日（日）
- 2 参加者 15名（本会員7名・一般8名）
- 3 コース 1日目 玉原湿原…ブナ林  
2日目 鹿俣山
- 4 講師 古見満雄氏（群馬県自然観察指導員・利根沼田自然を愛する会会長）  
堤 氏（玉原高原ペンションオーナー）

## 5 概要

曇、霧、小雨時々晴れの天候の中、尾瀬ネットワーク群馬側初の自然観察会を行った。



講師の解説を聞く参加者（左端は古見満雄氏）

講師兼ガイドを引き受けて下さった古見氏は旧守る会の第一期生でもあり、玉原の主ともいわれるだけあって、豊富な知識で植物をはじめ専門的なことを易しく分りやすく、また楽しく解説してくださいました。

ブナは保水力があるだけでなく、多くの動植物の生態系に影響することで地球環境においても重要な自然の力があることなど力説された。

2日目の鹿俣山登山にはペンションの堤オーナーも同行し、二人の息の合った名解説は他に類をみないものであった。

終了後の交歓会では、参加者一人一人から「来てよかった」「次回もまた参加したい」の声が多く聞かれ主催した者として喜びが増した。

参加した尾瀬ネットワークメンバー

山本、永島、坂本、深山、伊藤、長島、清水  
群馬側担当理事 坂本敏子・清水博之  
指導員 山本誠剛

## 平成18年度第1回 尾瀬ヶ原野生シカ調査報告

1日 時 6月17日（土）夜半

2 調査  
場所



3 参加者 鎮目安康・清水博之・前田佳胤・  
横田有弘・坂本敏子・前田悦子

- 深山美子（以上尾瀬NW）  
 青木宗一郎（宇都宮大学） 計8名
- 4 確認頭数 55頭  
 5 調査状況
- ・使用器具 ビームライト一式・GPS・ナイトスコープ・方位磁石・双眼鏡他
  - ・所要時間 4時間15分
  - ・ 20:00 山ノ鼻（尾瀬ロッジ）出発
  - ・ 0:15（18日）帰着
  - ・天候 雨天
  - ・経過

小雨の中、深夜尾瀬ロッジを出発。雨は調査終了まで止むことはなかった。

上の大掘川、伝ノ丞沢、セン沢手前の尾根のせり出しなどで、3～4頭の群れ又は単独（オスジカと見られる）のシカを確認し続けた。中には13頭という群れもあった。

出発直後、宇都宮大学生青木さんがNWチームに合流し、竜宮まで共に調査を行った。

#### 6 特記

17日の日中、ビジターセンターからの情報により、シカによる樹木の被害跡を見てまわった。被害にあったのは主にチシマザクラで、研究見本園の入口付近、上の大掘川抛水林などでその状況を確認した。これについて、宇都宮大学へ連絡したところ、犯人はシカではなくネズミであろうとの見解であった。しかし、シカの尾瀬への侵入時期は年々早まっていて、一部は周辺地区で越冬をするようになったとか…。

目につくことが多くなった“掘り起こし跡”と併せて、今後の被害が思いやられる。

（シカ調査担当理事 坂本敏子）

## 健康を脅かす地球温暖化が進行 人類は未知の領域に突入（2）

### 喘息など呼吸器疾患が蔓延

エプスタイン博士は「社会的不公正の拡大と生物学的多様性の変化が、ペストや病原体の抑制に役立っている捕食動物、獲物、競争者のバランスを変化させ、結果として感染症の復活に寄与している」と指摘している。

また、過去に類を見ない猛暑が、ホームレスや不適切な居住環境にいる人の健康に影響を与えている。1995年に米国シカゴを襲った熱波で750人が、2003年にヨーロッパを襲った熱波で1,000人が死亡した。

さらに、気候変動に関連していると考えられ

る健康上の被害として、喘息の蔓延がある。例えば、米国では喘息患者数が1985年から4倍も増加したが、その原因の1つとして気候関連の要因が挙げられるという。また、カリブ海諸島における呼吸器疾患は、アフリカ諸国と大西洋に影響を与えている気候の変動と直接関連していると考えられる。一方、CO2濃度の上昇は草木の花粉と土壌菌類の増加につながっているが、これらのエアロアレルゲンはディーゼル粒子によりヒトの肺胞深くにまで運ばれ、その過程で免疫細胞を刺激する。

地表の氷量の相当量が溶解しており、健康にさまざまな影響を及ぼしている。地球温暖化と天候パターンの変動は、多くの国の水質と水量に脅威を与えており、これらの国々では地下水を汲み上げすぎて貯水不足となっている。氷河の多くは今世紀中に消失すると予測されており、人類や家畜、農業のための主要な水源が失われる。

（つづく）

（高橋 喬）

### 秋の研修・観察会のご案内...福島側

秋の研修会を10月9日(月)に実施します。

日程は10月7日(土)に檜枝岐(ひのき屋)に午後6時集合。8日(日)はバス添乗解説、9日(月)に七入より沼山峠までの旧沼田街道を登りと下りの健脚コースとお嬢さんコースに分けたハイキングを兼ねた研修会を行います。

申込み締切り・9月10日まで

申し込み・詳細は研修会担当理事 磯部義孝迄

0248-76-4319・FAX0248-72-5865

### 助成金でリーフレット作成

(株)申江貿易様よりの助成金で、入山指導の必需品であるリーフレット10,000部が出来上がりました。入山指導時にご利用ください。

(事務局)

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

〒100-0014

東京都千代田区永田町2-17-5-203(株)SEC内

電話 03-3851-0321/FAX 03-3581-2178

[http://www.geocities.jp/oze\\_net/](http://www.geocities.jp/oze_net/)

理事長	高橋 喬
事務局長	椎名 宏子
編集担当	島上 健
HP担当	東雲 明

